

【生物系】

<b>研究課題名</b>	制御性T細胞機能の分子的基础に関する研究
<b>研究代表者</b>	坂口 志文 ( 京都大学・再生医科学研究所・教授 )
<b>研究の概要</b>	正常固体中に存在する制御性T細胞 (以下 <b>Treg</b> と略) は、ヒトでも動物でも、あらゆる免疫応答の抑制的制御に関与している。その異常は、自己免疫病、アレルギーなどの原因となる。本研究では、 <b>Treg</b> の免疫抑制機構および発生・分化・増殖機構の分子的基础を明らかにする。特に、 <b>Treg</b> 特異的転写因子 <b>Foxp3</b> を中心として、 <b>Treg</b> による抑制機構の分子機構を明らかにする。この研究の期待される成果は、免疫寛容、免疫抑制機構のより進んだ理解であり、同時に免疫応答制御能をもつ新たな機能分子の発見、 <b>Treg</b> 特異的分子マーカーの同定、それらの分子を介した免疫応答制御法の確立にある。
<b>研究者数・期間</b>	8人 (平成20年度 ~ 平成24年度)